

I 正蓮寺川総合整備事業とは

正蓮寺川において地域の環境改善を図ることを目的に、大阪府、大阪市、阪神高速道路（株）の三者が連携し、河川管理施設、下水道施設、公園施設及び高速道路等を総合的に整備するものです。

具体的には、正蓮寺川を陸地化し、河川機能や下水道機能、高速道路（淀川左岸線）が地下に整備されるとともに、陸地化された上部空間を利用して、地域の災害時の避難空間の確保や生活の安全性、快適性の向上を図るための歩行者専用道と公園が整備されます。

正蓮寺川公園の整備については、この千鳥橋から上流側の一部区間のオープンを皮切りに、区民の皆さんとの協働を図りながら、順次進められていく予定です。

【事業経緯】

昭和 61 年 8 月	淀川左岸線 1 期（掘割構造）区間及び下水道の都市計画決定
昭和 62 年 1 月	正蓮寺川公園 都市計画決定（12.7ha；掘割の両側を公園に）
昭和 63 年 2 月	淀川左岸線 1 期 工事開始公告、都市計画事業承認
平成 5 年 5 月	正蓮寺川陸地化工事開始
平成 6 年 4 月	淀川左岸線 1 期 北港 JCT－島屋間（1.3km）供用開始
平成 14 年 7 月	淀川左岸線 1 期 都市計画変更（掘割構造→覆蓋構造） 正蓮寺川公園 都市計画変更（12.7ha→18.8ha） 正蓮寺川歩行者専用道 都市計画決定（延長 2,660m、幅員 12m）
平成 21 年 8 月	正蓮寺川陸地化工事完成
平成 25 年 5 月	淀川左岸線 1 期 島屋－海老江 JCT（4.3km）供用開始
平成 28 年 3 月	正蓮寺川横断橋梁の盛土による陸橋化完成
平成 29 年 4 月	正蓮寺川公園 一部開園（千鳥橋から上流 230m 区間）

正蓮寺川総合整備事業完成イメージ



Ⅱ 正蓮寺川総合整備事業に至る道のり

【水とのたたかい】

大阪市域は地盤高の低い沖積平野という地理的な条件により、洪水や浸水にたびたび襲われたことから、古くから数々の治水事業が実施されてきました。

昭和に入ってから、1934（昭和9）年の室戸台風による高潮のため、春日出、四貫島、西島など1万5千軒の家屋と桜島、島屋などの工場が水に浸かりました。

1950（昭和25）年には、ジェーン台風による高潮のため、此花区域のほとんどが1m40cm～3m70cmの深さまで水に浸かりました。このことから、正蓮寺川、六軒家川などにコンクリートの丈夫な防潮堤が作られ、浸水対策のポンプ場として北港抽水所、恩貴島抽水所がつくられました。

1961（昭和36）年には、第2室戸台風に襲われ、西九条地域の家は畳まで水に浸かりました。これを受け、「緊急3ヵ年計画」のもと、地下水のくみ上げによる地盤沈下に対応するため、防潮施設のかさ上げが1964（昭和39）年度に完了しました。

また、伊勢湾台風級の超大型台風を想定した「治水事業新5ヵ年計画」のもと、1968（昭和43）年から1971（昭和46）年にかけて、正蓮寺川、六軒家川、安治川に高潮を防ぐための水門がつけられました。

【蓋かけへの道のり】

このように治水に対する安全性は確保できた一方、河川とまちを分断することになり、また生活や工場からの排水による水質汚濁、舟運の減少などを背景に1964（昭和39）年、此花区内各種団体長から大阪府知事あてに「正蓮寺川並びに六軒家川の埋立工事実施についての陳情書」が提出されました。また、1967（昭和42）年には、六軒家川埋立促進実行委員会（此花区内各種団体長により構成）から大阪府知事、大阪市長、近畿地方建設局長あてに「正蓮寺川並びに六軒家川の埋立実施についての陳情書」が、1975（昭和50）年には、市長あてに「正蓮寺川、六軒家川埋立促進に関する要望書」が提出されました。

そして、1989（平成元）年、正蓮寺川・六軒家川環境整備推進協議会ほか27,762名の連署による「正蓮寺川の環境整備の早期実現、全面覆蓋化」を内容とする請願が、市会議長あてに行われました。この請願に対して、大阪市では、この正蓮寺川への全面蓋かけに向けた諸条件への検討が重ねられ、2002（平成14）年、淀川左岸線を覆蓋構造とする都市計画変更がおこなわれるに至りました。

正蓮寺川への全面蓋かけは、このように此花区民が重ねてきた努力の成果といえます。